

前号以降の行事等をご紹介します。



10月27日(金)音楽会本番がありました。秋のお楽しみです。リハーサルもいいですが、本番はそれを上回ります。やはり、全校児童が一堂に会してお互いに演奏を聴き合うことが大きな刺激になるようです。1～3年は、学年揃っての演奏ですが、3年生ともなると1、2年には負けられないという思いが伝わってくるようでした。そして、4、5、6年とつながっていくことで、上の学年にはプレッシャーもあると思いますが、それに負けずに素晴らしい演奏で締めくくってくれました。本番とそれまでの練習の積み重ねによって得られた価値は本当に高いものがあります。来年も楽しみです。

11月2日(木)の朝会で、恒例の「いじめ」についての話をしました。いつものように上履きをちゃんと履いていて、名札もちゃんとつけていますかという問いかけから入ります。出来ることがきちんと出来ているか否かの確認です。そして、「いじめはどんな場合でも絶対に許されないことである」という意見に賛成の人の挙手を求めます。全員すばっと挙手ができるわけではありませんが、昨年よりはよくなったようです。ここは、ぶれなく挙手ができるよう、こだわっていききたいところです。

次にいじめについての定義づけです。

「いじめとは、学校の中だけでなく、学校の外においても、同じ学年とか同じ交流班や登校班とか同じ習い事とか、とにかく何かしら関係している人から、心や体に危害を加えられたことで、心や体に傷を負ったと感じているもの」知っている人からされたり言われたりしたことで、いやな思いをしたならば「いじめ」だよということです。

これは、あれもこれもということになってきます。とすれば、きっと誰しもされたということだけでなく、しちゃったということがあるはずなのです。

そこで、全員起立してもらって次の質問です。

「いじめをなくしたいと思いますか？」思うならば座りましょう。いささか強制じみた部分もありますが、ここで立ち続けられる子は幸いです。

とはいえ、これでいじめがなくなるわけでは

ありません。

「うっかりしちやったり、言ったりすることもあるでしょう。」という現実的な理解のもと、どうすればいいのかという一つの方法として、「いやだ。」という思いを伝えることを提案します。自分で言えれば苦勞はしませんが、往々にしてそれができないからこそ繰り返されるといふ現実もあります。ですから、周りの人が「嫌がっているよ。」と教えてあげようと伝えます。

そして、自分がしたり言ったりしたことが「いじめ」であると気づいたならば、すぐにやめましょうと続けます。

なぜかという、「いじめ」を止めることができるのは、「いじめ」をした人だけにできることだからです。

この話が、1年生から6年生までの全員に伝わると考えるのは間違いです。でも、毎年繰り返すことで、少しずつ浸透していくものが必ずあるはずだと信じていますので、あきらめずに続けていきます。

11月7日(火)に「なかよしふれあいハイキング」が実施されました。昨年とは違って、熱中症を心配するような陽気でした。縦割り班による「知恵だめし・運だめし・力だめし」の競い合いです。6年生がリーダーシップを発揮する活動です。授業時間数の確保が叫ばれる状況ではあるのですが、やや縮小しながらも続けていく価値のある活動だと改めて思いました。



6年生の社会と総合の廊下で「戦時下の二宮を記録する会」の方々に来てくださり、戦争中の生活の様子などについてお話ししてくださいました。学童疎開のことや兵隊として二宮町にいたときのことなどがうかがって、そうだったのかと思うことがたくさんありました。子ども達は、長い話を最後までしっかりと聞き通すことができました。事実の持つ力でしょう。2回目の町内の戦争遺構に係るお話も受けて、戦争について考え、平和な社会をいかにつくっていくかについて自分の意見をまとめていくこととなります。



防火ポスターの表彰です。今年も力作揃いでしたね。4～6年生が参加します。町の広報でも紹介されましたが、これを機に、これからの季節に合わせて防火意識が高まることを期待します。

11月10日(金)の低学年をスタートとして今年も恒例の「二小チャンピオン」ドッジボール大会が開催されました。低学年の部は、2年生が貫録を示して1年生を退け、2年2組が同学年対決を制して優勝しました。



中学年の部は、予想を覆して、4年生との対決を制した3年2組の優勝でした。たがいに全力を尽くした末のあっぱれな勝利でした。



高学年女子の部は、見事なチームワークで勝ち上がってきた5年生との対決を制した6年1組の優勝でした。ここぞのところでしっかりと力を尽くすことができた姿は立派でした。



そして、最後は、高学年男子の部です。昨年、大波乱の5年優勝の学年ですから、今年も強いんじゃないの？という予想通り、5年生の挑戦を退け、同学年対決を制して優勝したのは、6年2組でした。さすがの迫力で、締めくくりはやっぱり高学年男子かと思わせられました。



優勝したクラスはもちろん、その他のクラスも本番に向けて時間を工夫して練習を重ねるなど、伝統の大会になってきなあとと思います。既に3学期の大縄大会に向けて取り組み始めているクラスもあります。楽しみです。



第1回牛乳パック開き大会が開催されました。1～3年の部です。クラス代表5人が25個の牛乳パックを開く速さを競います。

ちゃんと開かないとタイムが加算されるので、その場で結果が出ません。現時点で優勝が不明です。続報をお待ちください。今後、伝統の大会になっていくのでしょうか。



11月30日(木)朝、学校保健委員会が開けられました。恒例の保健劇のテーマは、「かぜ予防」です。くしゃみに含まれるウィルスの数や飛ぶ距離にびっくりです。学校生活における注意点など劇を通して伝えられます。最後は、「はいてあらいマスクうがいかなぜよぼう」の唱和で締めくくりです。インフルエンザも流行期に入りました。何よりも予防が肝心ですから、お互いに気を付けていきましょう。

ここから、先生達の研修の様子をいくつか紹介します。

右の写真は、道徳の授業研究会です。6年生の道徳授業を参観して、放課後、良かった点、課題となる点等を各自付箋に記入し貼り付け、グループ討議の中で、どう改善していくかを協議していきます。短時間で効果的な研究協議ができます。来年度の道徳教科化を受けて、学校研究として取り組んでいます。ここで学んだことを早速自身のクラスでの実践に結び付けていくわけです。32年度から完全実施される新学習指導要領に示される「主体的対話的で、深い学び」の具現化を道徳を通して我々教員も主体的に学んでいきたいと思えます。



東京学芸大学の粕谷恭子教授による外国語科の授業です。来年度から新学習指導要領への移行措置として、5・6年生の外国語活動は、15時間時数が増え、3・4年生の外国語活動は、15時間新設されます。

それを受けて担任自らがいかに授業を実践していくかが大きな課題となっています。実践を通して学んでいくしかありません。僕のように英語が苦手だった教員は、戦々恐々の思いですが、それをいかに楽しんで乗り越えていけるかが大事なポイントのように思われます。

最後は、体カテストの研修です。写真は、立ち幅跳びのポイントを学んでいるところです。全部で8種目あります。それぞれの運動の意味を知り、どのように測定するかのコツをつかむことで、記録が上がります。今持っている力をしっかりと発揮させることができるわけです。

